

はじめに

2008年10月に東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（東大EMP）は創設されました。リーマン・ショックただ中の船出は、21世紀の新しい知の形を提示する責務を、わたしたちに迫るものでした。そして、2011年3月には東日本大震災が起こります。甚大な被害は、福島第一原発の事故を含むことによって、わたしたちの社会的想像力そのものを根底から揺さぶりました。

科学の意義、テクノロジーとの関係の仕方、広がる格差、予想もつかないほどの政治状況の変化、超高齢化、医療化する社会、地球の持続可能性、復興する宗教、望ましい未来の社会等々の、差し迫った現実的な課題にどう立ち向かうのか。東大EMPはこうした課題解決の力を育むべく、最先端の自然科学や社会科学そして人文科学の問いの立て方（プロブレマティク）を、受講生とともに探求してきました。今日の学問は、何を答えるのかという以上に、どう問いを立てるのが重要だという方法的転回を経ています。その問いを立てる力を、現実的なテーマに対する課題設定力に注ぎ込んだわけ

です。

その際、東大EMPでは「本質を捉える」ことを重視しました。それは本質主義のよ
うに、何か都合のよいものを本質に立てて容易に物事を理解したこととする道では決し
てありません。「本質」という概念それ自体がどのような歴史的・学問的文脈で構成され
たのかまで問い直すことを要求するものです。それを「関与する知」だと呼んでもよい
かもしれませんが。本質を真に捉えるためには、その物事に対して距離をとって眺めるだ
けでは不十分で、それらに関与するという、より積極的で反省的な知の態度が必要な
です。

関与するためには適切な道具が必要です。その物事をさまざまな倍率で分析し、比較
し、さらには感じとるための道具です。わたしたちはそれを「教養・智慧」と言ってみ
たり、「新しい常識」と言ってみたりしています。どちらにしても重要なことは、わたし
たちが通常あまり疑うことなくそれを生きている常識、すなわち「自然的な見方」に抵
抗し、物の見方を自然化するプロセスまで見通す道具です。その道具は、古来繰り返し
問われてきた難問（心とは何か、存在とは何か、言語とは何か、倫理とは何か、等々）
を新しく語り直すことによって、磨かれていきます。

この道具を磨くのは、哲学だけの仕事ではありません。哲学が格闘し続けてきた難問
が、今や、あらゆる学問の最前線において問われるようになっていきます。東大EMPは

このように諸学問が出会う場所でもあり、そこには知的で巨大な渦が生じています。それはまるで渦巻きのコミュニティであるかのようです。

では、東大EMPは何をを目指すのか。それは社会的想像力をより豊かにすることによって、システムとしての社会をデザインし直し、マネジメントし直し、日本はもとより、人類社会の未来に貢献することです。耳に心地よい、容易な解決策はありません。ねばり強く新しい課題設定を試み続けること。そしてそれを可能にする新しい常識を、学問という砥石によって磨き続けること。これに尽きるのです。

東大EMPは発足からちょうど10周年を迎えました。この短くはない期間において積み重ねられてきた経験を振り返り、そしてそれを未来に向けて開いていくために、書物に記録しておこうと考えました。そして、その記録自体が東大EMPの態度を端的に示すようにしたい。『世界の語り方』というタイトルに込めたのは、そうしたい思いです。世界をどう新しく語り直すのか。それは、先ほど示した難問を通じて示されていきます。すなわち、心の語り方、存在の語り方、言語の語り方、倫理の語り方を刷新することによって、わたしたちがどう世界に関与していくのが明らかになるはずです。

さあ、ご一緒に東大EMPという知的な渦に飛び込みましょう。そして読者のみなさんお一人お一人と、さらなる渦を巻き起こしたいと思えます。

2018年6月

梅雨晴れの東京にて

中島隆博

世界の語り方1
心と存在
目次

はじめに 中島隆博 — i

第I部

心の語り方

1

心の語り方 中島隆博 — 3

〔座談会〕 — 5

合原一幸 尾藤晴彦 小林康夫

横山禎徳 中島隆博

はじめに 5 / 数学化された世界観 7

非線形システムと創発 11 / 意識をいかにとらえるか 14

共有できる心の定義はあるのか 17

- 「時間」と「量」の問題をどう考えるか 19
敏感なデカルト 23 / 共有される経験値と言語 25
脳の議論から「わたし」を考える 30 / 一定の近似でうまくいく 33
柔らかな力オス 37 / 心の語り方と無限 41
挑発される哲学的思考 43 / ループ的構造 48
多体問題と意識・心 54 / 言葉と想像力、モラル 57
クリエーションとラディカルに人間であること 60
おわりに 64

より深い思考へ

71

- 「人間とは何か？」という問い 小林康夫 — 73
脳と人工知能 合原一幸 — 83
新しい「常識」 横山禎徳 — 91

第II部

存在の語り方

103

存在の語り方 中島隆博 — 105

〔座談会〕 — 111

市川 裕 浅井祥仁 永井良三

小野塚知二 中島隆博

はじめに 111 / ユダヤ思想とタルムード 119

タルムードという営み 125 / 人間の理性をどう扱うのか 136

〔情報〕 — 目で見えるものと見えないもの 145

でき過ぎている宇宙 148 / 確率と偶然性 150

情報と位相 157 / 「鬼神」を語ってしまうような世界 162

フレームワークをつくり替える	168
日本における近代医学の成立から見えてくるもの	172
2つの重要な医学の側面——機械論医学と統計	176
森鷗外の格闘 181／医療の実践と個 184／おわりに	192

より深い思考へ

201

タルムードと日本文化	市川裕	203
科学から問う「存在」	浅井祥仁	241

おわりに	中島隆博	255
------	------	-----